平成３０年度第３回鳥取市総合企画委員会　議事概要

日　　時　　平成 30 年 11 月 20 日（火）午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分

場　　所　　鳥取市役所本庁舎 6 階　全員協議会室

出席委員　　池内徹委員、坂本雄司委員、佐々木ターミー副委員長、塩谷義勝委員、下田敏美委員、塚田比佳里委員、鳥谷マサ子委員、西口清壽委員、西村賀代委員馬場一憲委員、林由紀子委員、松浦秀一郎委員、松本壽惠委員、森田わか子委員、安田晴雄委員長、矢野順治委員、山根滋子委員

欠席委員　　千馬高広委員、清水雄作委員、森原昌人委員

鳥 取 市　　市長、副市長、関係部(局)長、政策企画課創生戦略室(事務局)

１　開会

【塩谷政策企画課長】

ただいまから平成３０年度第３回鳥取市総合企画委員会を開会いたします。

本日は、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

鳥取市総合企画委員会条例の規定によりまして、委員会は委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができないということであります。本日は２０名中１７名の委員に出席をいただいております。今回の会議が成立していることを報告いたします。千馬委員、清水委員、森原委員の３名につきましては、所用で御欠席ということでございます。

それでは、開会に当たりまして、深澤市長より御挨拶申し上げます。

【深澤市長】

皆さん、こんにちは。今日は大変お忙しい中、本年度第３回目となります鳥取市総合企画委員会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

皆様方におかれましては、日ごろより鳥取市政の推進に格別なる御理解、御協力、御支援を賜っておりまして、あらためまして感謝申し上げる次第でございます。

御承知のように、１８日に市議会議員選挙がありまして、３２名の方が当選をされました。立候補は３５名ということでありました。市政の課題はたくさんあります。今後、議会の皆さんにおかれましても、様々な課題解決、また、鳥取市の発展のために御尽力を賜りたいと考えておるところであります。

本日は、創生総合戦略のうちの平成２９年度の施策評価でＣ評価、Ｄ評価の判定とされ

た施策、また事業内容の改善が必要な施策を中心に、今年度の取組状況について中間報告をさせていただきたいと思います。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年の１月以来、委員の皆様におかれましては、創生総合戦略、また第１０次総合計画の進行管理などに大変熱心に取り組んでいただいたところであります。本日の第３回委員会が任期中の最後の委員会となります。安田委員長を初め２０名の委員の皆様には、この場をおかりいたしまして厚く感謝申し上げる次第でございます。今後とも本市の発展、飛躍に御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、委員の皆様の今後ますますの御活躍と御健勝を御祈念申し上げまして、簡単でございますが、開会にあたりましての御挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

【塩谷政策企画課長】

それでは議事に入る前に、委員の皆様のお手元のほうにお配りしております資料の確認をお願いいたします。Ａ４判の横長の総合戦略評価管理表ですけれども、事前に配付させていただいております資料２の中の、右上に管理番号というのがありますが、管理番号９２番について修正がありましたので、差し替えをお願いしたいと思います。

それから、Ａ４判縦長の鳥取市インターネット放送番組「今夜くらいトットリの話を聞いてくれないか」の紹介パンフレットを机の上に置かせていただいております。このインターネット放送番組につきましては、動画共有サイトユーチューブを活用した情報発信の取組で、１０月３１日に第１回目の放送を開始いたしました。毎月最終水曜日の１９時から、本市で活躍されている様々な分野の方をゲストにお迎えして、ライブ放送をしております。次回は１１月２８日水曜日ですが、放送内容はいつでも視聴できる仕組みになっておりますので、是非、御覧いただけたらと思います。

そうしましたら、議事に入りたいと思います。鳥取市総合企画委員会条例第４条第２項の規定によりまして、議長は委員長が務めるということになっておりますので、これ以降は議事の進行は委員長様のほうにお願いしたいと思います。議事の前に、安田委員長様のほうから御挨拶をお願いします。

【安田委員長】

皆様、こんにちは。昨日からカルロス・ゴーンさんの件が、どこをひねってみましても載っているわけですけれども、実は、彼は１９９９年に日産のＣＯＯになられて、日産の、いわゆるリバイバルプランを標榜なさいまして、この中で２点、非常に印象に残っていることがあります。それまでは余りテレビ報道でも聞かなかったんですが、コミットメ

ントという言葉、それからトレーサビリティという言葉が２つ非常に印象に残っている。これは公明正大にやろうということでありますし、もちろん消費者に対する約束事、市民に対する約束事、また社員に対する約束事というようなことで始められたわけでありますけれども、物の見事に覆されました。私の記憶、２０年間全部末梢しようと思っておりますけれども。

企業というのはゴーイングコンサーンでありますし、やはり何だかんだいいましても社員と共に、もちろん市民の方々と共に仕事をするのが企業であるというふうに思います。社会的な責任は大変大きなものであろうかと思います。

余談でありますが、１１月に入ってから２冊の本を買い求めまして、１冊目が多分、市の職員の方々は絶対お買い求めになっておられると思いますけれども、「４７都道府県ランキング」という統計学に基づいたランキングの本が１冊、それからもう１冊は「わけあって絶滅しました」という本、２冊を買い求めました。

１位から４７位までのランキングが掲載されておりますが、鳥取県のランキングを少し御披露したいと思います。これは人口比、人口が１０万人に対する比率、いわゆる定量的な比率でありますけれども、第１位が、これは誇ってもいいと思いますけれども、ローソンの店舗数、実態は１０万人を一つの目安にしていますので。それから体育館数、これも雪国だから当たり前ですよね。冬場あんまり活動できないので。それから第３位に、地方公務員数。それから、これも第３位ですけれども、パチンコ店舗数、それから第４位にがん年齢調整死亡率、これは７５歳以下でありますし、同じく第４位に保育園数、それから、書店数、地方交付税額、ブリ消費量。逆に第４７位から４３位ぐらいまでを御披露させていただきますと、第４７位で交通事故件数、これは少ないほうがいいので、これは第４７位でも誇れることだと思います。それから、ちょっとびっくりしたのが、外食費が４６位なんです。同じく女性の喫煙率、新聞購読費、教育費。こういうものがずっと披露されておるわけでありまして、これで何を申し上げたいかといいますと、これで鳥取県の問題と傾向と対策がきっちりと読み取れるのではないかと思っていまして、これに基づいて皆さん方も行動、アクションを起こしていただけたらと思います。

もう１冊、「わけあって絶滅しました」という本、これはもう小学生でも理解できる本でありまして、どういう自然環境で、どういう気候で、また、どういうことで絶滅したかというのをジュラ紀から、いわゆる歴史の始まったときぐらいから１９９０年代までの生物の亡くなった原因を書いてあるわけです。何を申し上げたいかといいますと、私たちも

絶滅危惧種にならないようにどんどん変化をして、今の時代に合ったアクションをとっていきたいなと思います。少し時間が長くなって申し訳ございません。

今回がこのメンバーでの最後の委員会となりますので、議事の以降は、皆様方に２年間にわたり協議をさせていただいた中でいろんな御意見があろうかと思いますので、ご発言の時間をとらせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、議事に入らせていただきます。

まず、事務局筒井企画員から、資料１、２の概略説明、よろしくお願いいたします。

【筒井創生戦略室企画員】

創生戦略室の筒井です。よろしくお願いいたします。

それでは、まず、資料１を御確認ください。こちらは、平成２９年度の各施策の評価を７月と８月の２回に分けて評価をいただきまして、その中で、Ｃ、Ｄの判定をいただいた各施策、１１件ございます。それと第２回目の評価で、施策の内容の見直しが必要という施策が２件ございました。こちらの一覧表になります。

これから管理番号、上の４８から順次担当部局より説明を行います。その後に委員の皆さんから御意見をお伺いさせていただきます。そして資料番号２でございます。Ａ４判横長になりますけれども、こちらは資料１のそれぞれの施策の評価管理表になってございます。管理番号が右上に記載しておりますので、各施策の番号はこちらで御確認ください。それぞれの裏面に３０年度の取組状況を赤い枠で囲ってあります。それでは、管理番号４８から順番に一括して説明させていただきます。それでは、まず、経済観光部からお願いいたします。

【浅井経済観光部長】

経済観光部長、浅井でございます。資料２の一番最初、管理番号４８番。具体的な施策といたしましては、誘致企業とのビジネスマッチングによります地元製造業の成長分野の新規参入及び受注拡大の推進ということでございます。

裏面で、３０年度の取組ということでございますけれども、もともと従来、本市には電気・電子デバイスの集積等はございましたけれども、近年の企業誘致に当たりましては、成長分野であります自動車、航空機、医薬、医療関連等の企業を中心に誘致を進めてきておるところでございます。しかしながら、こうした企業から地元企業への発注の課題といたしましては、各業界が求める品質基準でありますとか認証に対して地元企業が追いついていないといったような課題がございます。したがいまして、地元企業、中小企業等の生

産性の向上でありますとか人材育成等に支援を行っているというところが取組の現状でございます。今年度につきましては、受発注の獲得に向けまして、本年６月に施行されました生産性向上特別措置法に基づきまして先端設備等導入計画を策定された中小企業へのこうした生産設備投資へ、新たなメニューを策定いたしまして支援をさせていただいているところでございます。具体的には、１，５００万円以上の設備投資に対しましては、導入された先端設備に係ります固定資産税を３年間減免させていただくなどの措置に加えまして、従業員の所定内賃金控除２％以上、あるいは５％以上、段階ごとに補助率を定めまして、企業を支援させていただくようなメニューを新たに新設させていただいたところでございます。

こうした成果もございまして、これまで平成２７年度以降、誘致企業とのマッチングでは１件というような実績ではございましたけれども、今年度につきましては、具体的にイナテック鳥取から１件、地元企業への発注がございますし、また豆乳製品をつくっておられますマルサンアイさん、こちらのほうは学校給食に生産された豆乳を活用させていただいたりといったような、新たな取組も進んできておるという実績でございます。

続きまして、その次、管理番号５０番。具体的な施策が、中小企業等の製品の販路拡大及び技術競争力の向上に向けた各種展示会への参加促進というものでございます。

裏面の今年度の取組でございます。具体的には、中小企業等が販売促進につながるために行われます自社商品、技術等につきまして、展示会、商談会等に出展される場合にその経費を負担するといった支援を行っているところでございます。昨年度にこの補助支援に係ります補助の要綱を改正いたしまして、昨年度の４月以降、通算３回を限度として新たにこうした出展に対する支援をリセットさせていただいたというようなことで、利用していただける企業も増えてきているというような状況でございます。今年度につきましては、当初予算で確保していました見込みより多くの企業の参画をいただいたというようなことで、９月には補正予算を組ませていただきまして対応をしているというような状況でございます。具体的には経費の３分の２を補助させていただくというようなことでございますので、３回まで出展いただけるということで、今後ともＰＲに努めていきたいというふうに考えております。

続きまして、管理番号５２番。施策名といたしましては、６次産業化の取組及び農商工連携によります高付加価値加工品の開発・販売と海外輸出の推進というようなことでございます。これにつきましては、達成率といたしましては、平成２９年度で５５％というこ

とが実態でございます。６０％未満のために、進捗状況としてはやや遅延という格好となっております。具体的には、鳥取商工会議所等へ６次産業化の専任の従業者を配置していただくなど、生産者、事業者のマッチング等につながる事業を行っているところでございます。累積といたしましては、先ほど申し上げたとおり達成率５５％ということでございますが、単年度、２７年度以降で見ていただきますと、２７、２８年度が２３件ずつ、２９年度も２５件と、年間２５件の５年間で１２５件という目標を定めておりますが、単年度で見ますと大体９０％、９２％の達成率ということでございますので、おおむね順調に推移されているものと思っております。今後もこの事業につきましては継続していき、実績を上げていきたいというふうに考えております。以上でございます。

【谷村農林水産部長】

続きまして、管理番号５３番になります。農林水産部長、谷村でございます。

具体的な施策といたしましては、６次産業化の取組及び農商工連携による高付加価値加工品の開発・販売と海外輸出の推進ということでございます。２９年度の企画委員さんからの御意見といたしましては、加工技術者の育成であるとか、それから取組の機運を盛り上げてほしいというようなこと、それから６次化のノウハウ、経営の研修会をやったらどうかというような御意見をいただいてきております。

３０年度の現在の取組といたしましては、今年の４月に６次化のマッチングサイトであります「ロクジカとっとり」の運用を始めました。現在のところ登録者数が５９件ということで、これは１次、２次、３次の事業者さんを含めての件数でございますが、５９件にとどまっているという状況でございます。また、県並びに産業振興機構さん、それから商工会議所さんとも連携いたしまして、各意向のある農家に対するアドバイスができる体制を整えているという状況にございます。また、地域商社とっとりと連携いたしまして商談会を計画しております。今月の２７日に今のところ広島、それから年明けの１月に神戸で商談会を開催して、販売ルートの確保につなげていきたいというふうに考えているところです。

課題といたしましては、やはり現在登録者数が５９ということで少し広げていく必要があるということでございますし、現在、１次産業の関係の登録を鳥取市に限って登録をしているところですけれども、少し範囲を広げたほうがいいのではないかというふうな意見もいただいておりまして、麒麟のまち、鳥取県東部ですけれども、あたりまで広げることも今現在検討をしているという状況です。今後も、この６次化の取組によって農業者、水

産業者、林業者の所得の向上に資するような形に持っていきたいというふうに考えております。以上でございます。

【安本地域振興局長】

続きまして、管理番号７３番でございます。地域振興局長、安本でございます。

半農半Ｘなど里山における多様なライフスタイルの提案でございます。この取組につきましては、地域振興局と農林水産部で連携をして取り組んでおるものでございます。

めくっていただきまして、３０年度の欄でございますけれども、まず、取組内容でございます。今年度は農業振興課のほうと連携いたしまして、大阪、麒麟のまちで行いました移住相談会にとっとりふるさと就農舎にも参加していただいて、就農支援制度の説明を行ったり、就農者の獲得に向けたＰＲなども行ってきたところでございます。また、平成３０年、今年度の４月から移住相談会、無料職業紹介も行うようになっておりますので、半農半Ｘ希望者への就農相談も受け付けを行ったりというふうな取組をしておるところでございます。以上でございます。

【谷村農林水産部長】

それでは、農林水産部のほうから少し取組の課題なり、今後の方向性について御説明をしたいと思います。

基本的には、山村地域に、専業農家だけではなくてある程度農ある暮らしを求める方々に移住をいただいて、山村地域のコミュニティーを維持していくということも一つ大切だということで、農林水産部としても取組を強化しているところでございます。現在のところ、先ほどのように地域振興課と連携して、営農相談等から出てきたものに対して対応するようにはしておりますが、現時点で多いのが、やはり６０、７０歳を超えた、定年を迎えられた方が少し田舎のほうで暮らしたいというようなお話、相談も受けているところです。ただ、どうしても今のところ支援策として限定的なものになっている関係がありまして、このあたりについて何らかの支援ができないか、今後検討していく必要があると考えているところです。極力対応できるような形で今後検討していきたいというふうに思います。以上でございます。

【安本地域振興局長】

続きまして、管理番号７５番。Ｕターン支援登録制度を活用したふるさと回帰希望者への定期的な情報提供でございます。

ここでは、まず、ＫＰＩを見直しさせていただいております。当初設定５年間で５，０

００人の評価指標を掲げさせていただいておりましたが、今年度見直しをさせていただきまして、５年間で４００人という指標に変更をさせていただいております。これは当初、５，０００人のまず考え方でございますけれども、鳥取市から年間３，０００人以上の若者が転出をしているという現状の中で、３分の１程度、１，０００人程度は登録をしてもらえるのではないかというふうな考え方で当初の指標を設定しておったものでございます。実際には、取り組んでいく中で実績と大幅な乖離があるというふうなことで見直したものでございます。見直しの考え方としましては、２９年度までの３年間での実績、平均登録件数に残りの２年間は約１．５倍強の登録を見込むというふうなことで、残り２年間はおおむね１００件ずつの新規登録を見込むというふうなことで、４００人の登録で設定を変えさせていただいております。

では、３０年度の内容でございます。今年度は、これまでから登録制度、市のホームページでございますとか、とっとり市報、相談会などでのチラシの配布などで制度の取組を周知してきたところでございます。今年度はお盆の鳥取へ帰省された皆様にバスターミナルや鳥取駅などでチラシを配布したり、それから、東京、大阪県人会を通じて会員の皆さんにチラシをお届けしたり、それから、東京にあります県人寮に資料をお送りして、皆さんに届けていただいたりしておるとこでございます。また、新たな取組としまして、本年７月からこの制度の登録者の方を対象にして、就職活動時に鳥取に帰省された際の交通費の一部を助成するというふうな制度を始めておりまして、これによりまして、Ｕターンの促進に向けた取組を行っておるところでございます。

課題・問題点でございますけれども、本年７月からスタートしましたこの就職活動の交通費の補助制度でございますけれども、それぞれダイレクトメール等で案内をしておるところでございますけれども、なかなか利用が進んでいないことが少し課題になっております。このあたりをもう少し制度の周知に力を入れていく必要があると考えております。

今後の取組でございますけれども、さらにいろんな形で情報を届けるというふうなことで、ふるさと鳥取県定住機構のほうにも御協力をいただいて、Ｕターン支援登録制度を定住機構のホームページやメルマガに掲載をしていただくようにお願いをしておるところでございます。現在、このホームページ等のつくり込みを行っているところでございます。

それから交通費の補助制度でございますけれども、利用が十分でございませんので、機会を通じて、今後まだ企業の合同説明会等も鳥取を会場に開かれたりしますので、そういう場を通じてチラシ等を配って制度の周知を図っていきたいと考えています。以上でござ

います。

【田中企画推進部長】

企画推進部長でございます。管理番号９２番の説明をさせていただきます。

これは、具体的な施策としまして、「すごい！鳥取市」による知名度アップ大作戦、シティーセールスを推進していくということでございます。差し替え資料を置かせていただきましたけれども、これまでＫＰＩの内容が媒体広告換算で、少しわかりにくい内容でしたので、もう少しわかりやすいものにしようということで、前回、市民アンケートにおける市民愛着度に見直しをさせていただいておりましたけれども、これも少し目標としては若干取組と無縁な感じがするというようなことで、直接的にこれを換算できるものとして、移住定住、観光入込、この２つをＫＰＩに設定させていただいたところでございます。

３０年度の取組ということでございます。裏面になりますけれども、シティーセールスのブランドスローガンとしまして、ＳＱのあるまちに沿った取組で、これは委員さんのほうからも、こういったＳＱのあるまちの深掘りをというような御意見もいただいております。こういったことを踏まえまして、鳥取市の新たに、冒頭に課長が説明しましたけれども、インターネット番組の取組、また広報室の担当になりますけれども、「すごい！鳥取市ワーホリ！」、これは圏域を拡大していくというようなこと。また、これもかなりいろんなメディアでＰＲされましたけれども、吉祥寺に告知ポスターを張ってというようなこと、こういった取組をやっているところでございます。

課題としましては、真ん中の欄ですけれども、ＳＱのあるまち、こういったものにつきまして、隗より始めよということで、我々鳥取市職員がブランドロゴマークを名札につけたりしておるところでございますけれども、今後、官民一体となった市全体の取組に発展させていくことが重要であります。また、外向けには鳥取市に好意を持ってくださるような取組を広げていくことも重要で、３０年度はこれらの取組を継続して拡大を図っているという状況でございます。以上でございます。

【中島福祉部長】

続きまして、管理番号９３番でございます。福祉部長、中島でございます。

具体的な施策ということで、高齢者の健康寿命の延伸につながる住みよい暮らしの実現ということになっておりまして、さらに介護・医療分野の企業と連携したサービス付きのバリアフリー構造住宅の新設促進ということで、一般的にサービス付き高齢者向け住宅、さらに略してサ高住といったりしますが、そういったものの促進ということにしておりま

したけれども、今年度見直しをさせていただきまして、住民主体の通いの場の充実ということにさせていただいております。それと合わせまして、ＫＰＩにつきましても変更させていただいておりまして、大都市圏等の高齢者の受け入れ数８０人という内容でしたけれども、本市の住民主体の通いの場の一月当たりの平均開催数を前年度以上にするということで、一月当たりということで、１つの箇所、具体的に言いますとサロンというようなことで高齢者の皆さんの集いの場、通いの場がありますが、年々開催の箇所数も増えてきておりまして、今年は３８０、４００近くになろうかとしておりますけれども、１カ所当たりの開催回数、開催頻度を高めていく、そういったことを目指すというＫＰＩにさせていただいております。箇所数を増やすということももちろんこれからも進めてまいりますけれども、箇所ごとの開催数を、通常ですと今は２カ月に１回とか毎月１回というようなところが多いわけですが、それをできれば毎週１回ぐらいに増やしていただいて、住民主体の介護予防活動をさらに普及させていきたいということで、こういった見直しをさせていただいております。

はぐっていただきまして、２９年度、３０年度と出ておりますけれども、２９年度の欄をごらんいただきますと、サ高住につきましてはその欄にも書いております、２６から２９と書いておりますけれども、国の補助もありまして、民間の主導によりまして民間それぞれの事業者の経営判断により増加を続けております。これは全国的にもずっと増加が続いておるという状況でございます。また、そこに県外からの方という数も出しておりますけれども、数的には増えてきておりますけれども、そう多くはないというようなことで、入居者の大部分は市内からの転居というような状況でございます。

こういったことを踏まえまして、サ高住の整備促進につきましては民間の経営者の皆さん、事業者の皆さんの経営判断に委ねるということにしまして、また高齢者の皆さんの移住促進ということもありましたけれども、これにつきましては高齢者に限らず、移住促進というような取組を本市としては積極的に行っておるわけでありますので、そちらのほうに委ねるということにしまして、もとに書いておりました具体的な施策であります高齢者の健康寿命の延伸につながる住みよい暮らしの実現ということを促進する上で、重要な施策の一つであります住民主体の通いの場の充実、これを目指して取組を進めていくということにさせていただいたものでございます。

この住民主体の通いの場の充実でございますけれども、高齢者の皆さんが地域の中で生きがいや役割を持って生活できるような居場所に通い続けることが介護予防には一定の効

果があるというふうに考えられております。市町村では介護予防・日常生活支援総合事業という、介護保険の中の事業でありますけれども、そういった事業を用いまして、高齢者の皆さんの身近な場所に住民主体の通いの場の設置を推進しておりまして、住民自身の積極的な参加と運営によります自立的な拡大といったものに取り組んでいるところでございます。

３０年度の取組でございますけれども、地域福祉の推進役として生活支援コーディネーターというものを配置しております。これも介護保険の中の事業の中で設置をしておりますけれども、現在８名おりまして、別名、地域支え合い推進員というような名前もありますけれども、本市の場合は市の社会福祉協議会に委託して設置をしておりますけれども、こういったコーディネーターの皆さんが地域に出かけていって各地域の実情把握、地域の皆さんのそういったネットワークづくり、さらには、いろんな助け合いについての仕組みをどういったふうにするといいのだろうかと、地域の皆さんといろんな意見交換をさせていただくような取組をする役割でありますが、そういったコーディネーターの皆さんで、ふれあい・いきいきサロンについての開催日数、開催回数の増加に向けて取組をさせていただいております。さらに具体的に言いますと、現地訪問によって現状把握でありますとか助言、相談対応、さらに、本市の福祉部のほうに配置しております理学療法士、あるいは市の栄養士、そういった専門職を各地域に講師として派遣して、いろんな支援策等を、さらに活用策、そういったものを提案したりというようなことも行っている状況でございます。こういった状況を通じまして、サロンの開催頻度、開催回数を高めていこうと進めているところでございます。以上でございます。

【綱田都市整備部長】

続きまして、管理番号１０１番、具体的な施策、地域生活拠点における地域の利便性向上に向けた施策の推進ということでございます。都市整備部長の綱田でございます。よろしくお願いいたします。

まず、これにつきまして、ＫＰＩの見直しを行っておるところでございます。この地域生活拠点の形成につきましては、国交省、国の都市再生整備計画事業という事業を活用して取り組んできたところでございますけれども、平成２８年度よりこの事業が市街化区域以外では行うことができなくなったということがございまして、各地域のこういった生活拠点の形成について遅延が生じております。これにつきまして制度上のことですので、今後もそういった面でのハードでありますとか、そういった部分の遅れというものが想定さ

れるということがございまして、目標のほうを下方修正させていただいたところでございます。

３０年度の取組でございます。現在まで、地域生活拠点の用瀬、青谷、気高というような新市の中心部におけますＪＲ等の駅の周辺等々ということになりますけれども、こういった各地域の生活拠点におきまして、先ほど申し上げました国のメニューを活用いたしまして、駅前広場でありますとかバスの乗り継ぎ拠点整備など、地域生活拠点の利便性の向上に取り組んできたところでございます。２９年度は青谷と浜村の駅前広場整備に着手するとともに、この２つの駅の駅前のバス停、バスの待合所、こういったものの実施設計などを行いまして、平成３０年度は青谷及び浜村駅、この駅前広場整備、これを推進するとともに、青谷地区におきましては、地域の憩いの場の創出を目的として青谷中央広場の整備でありますとか、これに附属します河川の親水空間、こういったものの整備に取り組んでおります。また浸水対策のための排水ポンプの増設工事、こういったことを行っておるところでございます。今後とも、青谷地域については本年度が完了年ということでございますし、気高地域につきましては３２年度が完了年ということになりますので、地域生活拠点の形成に向けて計画的な事業の促進に取り組んでいくこととしております。

課題でございますけれども、先ほどＫＰＩの見直しのところでも触れましたように、国の事業等々の制度の見直し等、こういったものの影響がございます。今後、福部地域等の地域生活拠点形成も取り組んでいくこととしておりますけれども、新たな有利財源の研究等、こういったことと加えて、地域の課題やニーズ、こういったものを住民の皆さんと共有しながら地域振興策や交通政策など、全庁的な取組によりまして、今後も安心して暮らせる地域生活拠点の形成を図っていきたいというふうに考えております。

続きまして、管理番号の１０２でございます。具体的な施策といたしまして、市街地の都市機能・居住誘導施策の構築ということでございます。

３０年度の取組で、１枚はぐっていただきまして、立地適正化計画の策定ということでございます。これは多極ネットワーク型コンパクトシティの実現を目指すための計画でありまして、主に市街化区域を対象といたしまして公共交通沿線の居住人口、こういったものを維持することで中心拠点における総合病院などの質の高いサービス提供施設を確保することで、全市民が安心して利用できる都市環境の維持・充実を図ることとして策定を進めているものでございます。２９年度までに、立地適正化計画の公表を行っております先進自治体への視察でありますとか、その他自治体の策定状況や策定に伴う課題等の調査を

行ったところでございます。平成３０年度でございますけれども、中心拠点に質の高い生活サービス機能を促進する区域と合わせまして、その区域でのサービス施設の設定、こういったものを行いまして、それに引き続いて都市機能誘導区域、こういった中での施設の立地、こういったものを動かす施策の検討を行うこととしておるところでございます。

続きまして、管理番号１０９番でございます。具体的な施策といたしまして、リノベーション手法を用いた遊休不動産の再生・活用によるまちの魅力向上でございます。この施策につきましては、平成２６年から２９年の間に、主にリノベーションスクールを通じて、まちづくりの人材育成と遊休不動産のリノベーション事例の創出に取り組んできたところでございます。受講生は１００名を超えておりまして、こういった中で２つの民間が、まちづくり会社が結成されております。事例創出の面では、リノベーションスクールの対象案件、１２件ございましたけれども、そのうち４件で利活用が図られるとともに、これらに触発された事業化など、別途３件ございました。

課題ということでございます。こういった中で、個々の事業をつないで面的な効果を出してエリアの価値を高めるという方向性のためには、もう少し一定のエリアに特化して事業化を行う必要があるのではないかと考えておるところであります。また、このリノベーションまちづくりにつきましては、民間主導型の取組でありますので、市民の皆様への啓発を行い、新しい事業者、参画を促していくということが継続した課題となっております。

また、事業化を進めるためにも遊休不動産及び事業者の掘り起こし、また、そのマッチングを図る仕組みづくりというものが必要となっております。現在、エリアを絞って、駅前の民芸館通りと遷喬地区におきまして、官民が連携して遊休不動産の掘り起こしや事業化を進めておるところでございます。また、市民の皆様への啓発の一環といたしまして、様々なテーマを設定して、市民が興味を持って気軽に参画できるまちづくりイベント、空き家会議というものを複数回開催しておるところでございます。事業化促進の一環として、民間事業者が遊休不動産、リノベーション事業の立ち上げを支援する新たな資金調達制度というものを創設いたしております。連携金融機関のネットワークを生かして案件の発掘や事業化の促進、また事業運営の伴走支援に注力をしているという状況であります。さらに、遊休不動産と民間まちづくり事業をマッチングするための新たな仕組みづくりを今後検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

【浅井経済観光部長】

最後になりましたけれども、資料１の、カテゴリーといたしましては下のほうの２つの施策であります。外部評価で見直しが必要とされた施策といたしまして、管理番号が８８番、中分類でいきますと滞在型観光の推進、それから、１１３番の広域連携及び自治体間連携の推進によります観光推進ということでございます。

資料２、管理番号１１３番、一番最後のページになります。この２つの事業とも前回の本会議におきまして、評価区分といたしましては一応順調という格好となっております。これにつきましては、達成率が８０％以上であったということで順調というような内部評価をいたしておりましたが、委員の皆さんのほうから、ＫＰＩといたしましては、鳥取砂丘・いなば温泉郷周辺の観光入り込み客数３２０万人を目指すというものでございますけれども、年々この入り込み客が減っているのに順調ということはどうだろうかというような御意見をいただいたところでございます。一応、この２つの事業ともにＫＰＩ等について変更はいたしておりませんが、取組状況といたしましては、本日の日本海新聞等にも載っておりましたが、来年いよいよ鳥取西道路が開通見込みとなっております。鳥取県、鳥取市が協調いたしまして、この西道路の開通を見据えた集客キャンペーン等を１２月に補正予算等を組みまして今年度から来年度にかけて展開していく、こうしたことで国内の入り込みを増やしていくといった取組を進める予定としております。また、本年の４月より本格的に運営を始めております広域連携ＤＭＯでありますけれども、麒麟のまち観光局、こちらのほうを中心といたしまして、若年層並びに外国人観光客をターゲットといたしました集客も展開するものとしております。年明けには、１市６町での枠組みによります広域観光連携を進めていきます。ロゴマークでありますとかキャッチフレーズ等を年明けには麒麟のまち観光局のほうが公表するというようなことで、今、準備を進めているというような状況でございます。本市といたしましては、外国人誘客等を進めるということで、昨年度から、年間８００万人と言われておりますけれども、関西を訪問いたします外国人をターゲットといたしまして、高速バスの割引運賃等を適用いたしました集客等に努めておるところでございます。

こうした成果もございまして、市内の１５の宿泊施設から協力いただいて統計をとっております外国人の宿泊数でありますけれども、平成２８年度は年間で１万７，４００人、年間に外国人の方が鳥取市に宿泊されておりますけれども、昨年度は１万７，４００人から２万４，３００人と増えております。今年度につきましても統計が出ております８月末

現在で既に１万４，０００人を超える外国人の方が宿泊しておられまして、前年より３０％アップといったような状況となっております。先般、台湾へのチャーター便が鳥取空港から運航されましたけれども、このチャーター便を活用いたしまして、若桜町の副町長を団長といたします観光団を鳥取市と一緒に結成いたしまして、台湾での集客に関するプロモーションも行ってきたといったような状況でございます。こうした取組を通じまして圏域への観光入り込み客数の増加を図っているという状況でございます。以上でございます。

【安田委員長】

それでは、各施策についてお感じになられたこと、また御意見等がありましたらお願いします。塩谷委員、いかがでしょうか。

【塩谷委員】

それでは、資料の７３番。この前、ちょうどぴょんぴょん番組だったでしょうか、テレビで言っていたのですが、移住する側も受け入れる側も両方該当者であるということで、何か話し合いの場ができたような、交流情報ガーデンというのですか、そういうものができたのかどうか、説明をお願いしたいのですが。

【安田委員長】

安本地域振興局長、よろしいでしょうか。

【安本地域振興局長】

移住・交流情報ガーデンでございますけれども、これは平成２８年１月から駅前の空き店舗を活用して設けておるところでございます。目的としましては、移住者の方に寄っていただいて、いろんな情報を交換したりとか、交流の場であったり、それから新たな移住希望者の方への情報発信の場であったりというふうなことで設けておるものでございます。現在、移住定住の相談員を３名配置しておりまして、午前１０時から午後６時まで開館しておりまして、月曜日が休館日となっております。また、移住者の皆様でＵＩ会という会をつくっていただいておりまして、定期的に意見交換等を開催しているところでございます。以上でございます。

【塩谷委員】

ありがとうございました。テレビで少し見ただけなので、余り詳しいことがわからなかったもので質問してみましたけれども、大変に良い交流の場ができたなと思って拝見させていただきました。

【安田委員長】

その他、いかがでしょうか。林委員、観光入込客数の減少の取組について、８８番、１１３番になりますが、浅井経済観光部長からの説明をいただきましたが、このような取組内容でよろしかったでしょうか。

【林委員】

鳥取西道路の関係が少し盛り込まれていて、今日の新聞にも載っていましたが、この道路ができることによって非常に便利はよくなるのですが、そのまま素通りされてしまう可能性もあるということで、これは今年度、来年度が一番正念場になるのかなと思っていますので、行政だけでなくて、民間とかいろんなところが一緒になって取り組んでいかないと厳しいと思います。県と鳥取市と共同でこういうキャンペーンとか、いろいろなイベントをするという内容であり、それに観光コンベンション協会も一緒になってやらせていただきたいと思っておりますので、これはしっかりやっていただけたらと思います。

【安田委員長】

ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。この議事に対して。なければ、次に移らせていただきますけれども、よろしいでしょうか。

それでは、本日、このメンバーで最後の委員会となります。これからは、市政全般、また御意見、御提案などいただきながら、鳥取市の将来像、いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる自信と誇り、夢と希望に満ちた鳥取市の実現に向けて意見交換をしたいと思います。あと１時間という時間の中での意見交換になりますので、自分はこれだけは絶対言っておきたいとおっしゃる方、自薦でいかがでしょうか。なければ、順番にご発言を願いますけれども。

【塩谷委員】

それでは、鳥取市の委託事業で芸術の出前講座というのをやらせてもらっているのですが、それに少し私もかかわっているもので。先日も湖山小学校で、市長の鳥取楽という講座を講師として来ていただきました。今日も宝木小学校で講義を終わったところです。その件に関して、教育長にお願いがあります。現在、芸術の出前講座、１年に４校、１４年続けているのですが、１回参加されたところは何回か希望が出ているのですが、まだ１回も希望が出ていないところが４４校中１９校あります。そこで、教育長にお願いしたいのですが、無理強いしてもらっても困るのですが、出前講座を受けてみようかなとか迷っている学校がありましたら、少し後ろから背中を軽く押してやっていただきたいと思って、

この場をおかりしてお願いします。よろしくお願いします。

【安田委員長】

尾室教育長、よろしいでしょうか。

【尾室教育長】

ありがとうございます。承知いたしました。確かにすばらしい出前講座ということで、開催していただいた学校は非常に喜んでおります。それから、またやりたいというようなところもありますが、中にはカリキュラムの関係でなかなか日程が合わないというところもありますので、できる限り活用できるように教育委員会としても後押ししてまいりたいと思っています。

【塩谷委員】

講座が終わった後に、子どもたちに内緒で感想を聞いてみるんです。そうすると、子どもたちは大変喜んでいます。それで、学校としたら、この忙しいのにそんなことまでと言われる学校もあるかもしれませんが、先ほども言いましたように無理強いはいけませんが、開催に迷っている学校がありましたら、少し後押してやってください。よろしくお願いします。

【安田委員長】

ありがとうございました。それでは、各委員より大体２分以内ぐらいで、お感じになられていること、また質問等がございましたらお願いしたいと思います。池内委員から時計回りでお願いします。

【池内委員】

年度途中からの参加でお力になれずに済みませんでした。仕事は別で、一個人として最近思いますのが、さっきもインバウンドの宿泊数の話がありましたが、外国人が増えているというのは、見た目で間違いなく増えているのだろうなと思っていまして、ただ、具体的に本当にどのぐらい日中来ているのだろうかと、宿泊はいいですけれども、駅前に来ておられる方がどのくらいになるのかなと。定住人口がずっと減っている中で、商売をされている方からすると、それを補うのがインバウンドの方々かなと思っていまして、そういった意味でデータをもう少し、非常に難しいのはわかりますけれども、何らかのいただけるデータがあると、それに向かって商売ができるのかなということと、もう一つは、この間も駅の辺をうろうろしていて、やはり外国語表記がまだまだ少ないのかなというふう

に感じていまして、この間もある外国人の方が、多分日本語は全くわからない方だと思いますけれども、お土産を買うのに苦労しておられたり、これは何なのだろうなという感じで見ておられたり、そういった面で外国人にも優しいまちづくりをもう少し取り組まれ、さらにアピールしていただけたらと思います。

【安田委員長】

浅井経済観光部長、昨年は外国人宿泊者数が２万４，３００人の実数は出ているので、国籍とかわかりますよね。

【浅井経済観光部長】

昨年度の宿泊者の地区別、国別といいますか、その実績で申し上げますと、香港が２９．８％、次いで中国が１７．３％、ヨーロッパとアメリカが一緒、欧米でありますが１３．５％、次いで台湾が１２．４％、韓国が１０．５％、東南アジアが９．９％、その他が６．５％という格好となっております。先ほど申し上げたとおり、２万４，２００人という数字ですけれども、市内の１５の宿泊施設に協力いただいておりまして、もちろん協力いただけない、そういった集計をとっておられないという宿泊施設もございますので、この数字以上の外国人の方が来ていらっしゃるというのは確かだろうと思っております。このほかにも、ＪＲの鳥取駅構内に国際観光客サポートセンターを鳥取市が設けておりますので、こちらのほうの実績でありますとか、鳥取県ハイヤー協同組合さんにお願いしております外国人の２，０００円タクシーといったような実績につきましても私どものほうで把握をしておりますので、そういった資料提供というのは、また御要望いただければ提供させていただきます。

【安田委員長】

開示可能だということですね。わかりました。池内委員、よろしいでしょうか。

【池内委員】

ありがとうございます。

【安田委員長】

次に、坂本委員、お願いします。

【坂本委員】

これまで、この委員会の委員としていろいろ発言させていただきました。また、ほかの委員会、例えば連携中枢都市圏ビジョン懇談会、こういう委員としても参画させていただいています。そのとき、私自身が資料を見させていただくときに、どうしても鳥取市は鳥

取市の目標値が出てくる。ところが、あちらの会議は１市６町の目標値が出てきて、それに対する進捗度はどうなのか、どう対策するのか、ほかの市町ですね、また６町の動きとか。資料ごとにそれぞれの趣が違った状況になっている。鳥取市の資料に対しての中身が、ほかの連携中枢都市の数値とある程度寄り添ったものでなくてはいけないのではないかと感じています。

例えば鳥取市は鳥取市の目標があって、これが１００％になればいいよというのではなく、ある程度１市６町、要するに中核市であるのだったら、ほかの周辺の町村さんの意向などを踏まえながら、そこの目標値も勘案し、全体としては鳥取市としてはこれだけれども、さらに鳥取市の中核市としての目標値としてこういうものがありますよ、そこもこういう形で配慮していますというような、温かい言葉とか温かい数値があれば良いと思う。多分これだけを鳥取市の市民が見れば、市としてはやっているなと思っても、これが隣の町村の方が見たときにはどう思うかということを考える必要があると思います。

若干、そこら辺の齟齬がありまして。例えば医療に関しても、そこの地域によって負担感というか、住民の方について、少しこういう形にしてほしい、医療の充実を図ってほしいというところがあります。例えば病院間でも、市街地の病院、僻地の病院で岩美とか智頭とか、看護師さんがいないから看護師さんを確保してほしいと。ところが、鳥取市の目標値は医療看護専門学校の市内就職率はどうとか、要するに鳥取市だけの観点ではなく、もう少し広い観点、障がい者施策にしても子ども施策にしても、そういうのをちょっとにじませるようなつくり方をしていただいたら、これはもっともっと幅が広い温かいものになるのではないかなと思います。

それと、もう一つ。ちょっと小さい話ですけれども、先ほど福祉部さんのほうからいろいろ、９３番ですか、サービス高齢者住宅のところで、方針転換をして地域の高齢者の方のサロン、要するに居場所の場をつくるということをおっしゃられました。それで、サロンの開催ということで目標値を変えられたということですけれども、大変良いことだと思います。やはりどこの地域でも高齢の方、障がいのある方、子育てで苦労をされている方が、どのようにしてこの地域が住みやすい地域になって、住みやすく自分たちが生きやすいような地域になるのかということを考えていらっしゃいます。ただ、この中で時々、施策の中でこういうことをしたら鳥取市として助成がありますよ、補助がありますよということがあります。このサロンにしても、ある程度開催に関しては、最初は１回開催当たりいくらという補助制度があります。ほかのいろんな施策についても補助制度がありますが、

手続きが煩雑で、報告書なり領収書なり、かなり厳密なんです。公金ですから、かなり厳しいやり方になるでしょうけれども、そうすると、高齢の方とか、やはりハンディのある方は、その申請に関してちょっとたじろがれるんです。こんな難しいのだったらやめたという形になって、若干サロンの回数にもそこらで制限が出ていますので、そういう補助制度に関しての申請基準、申請書類というのは若干、それをしたい人の気持ちに寄り添った、もっと簡便なものにしていただいて、この辺も市民の方、それを期待しておられる方の御意見を聞いていただけたらなと思っております。

【安田委員長】

ありがとうございます。田中企画推進部長、そういうことでございますので、総合的にいろんな施策に関してはもう少し情があってもいいのではないかという、相対論でありますが、よろしくお願いをしたいと思います。

次に、下田委員、お願します。

【下田委員】

私は、やはり人口減の取組というのを非常に気にしておりまして、鳥取市、中核市で２０万ということでございますけれども、今、２０万からだんだんとほど遠くなっているような状況でございます。人口減は、様々な生活や地域の活性化にも影響が出てまいります。先ほど医療の話が少し出ましたけれども、私ども東部医師会も鳥取市から急患診療所の委託を受けております。診療所の先生には定年というのはございませんけれども、一応、医師会のほうの急患診療所では７０歳までというふうなことをしております。先生方は、昼間は診療されて、夜、急患に出られるというような、７０歳を超えるともう非常につらいということで７０歳というふうにしております。総合病院の専門医の先生も不足を常々言われておりますけれども、身近な急患診療所の先生の確保もいずれ困難な状況が参ります。もうこの１０年以内に７０歳を超えられる先生がかなりいらっしゃいます。市民も高齢化していきますし、医師も高齢化で、支える人がなければ大変な状況になるのではないかなと。雇用を増やすといっても、働く人材不足ということはやはり人口減ということで、非常に課題山積ですけれども、今日、この総合計画の話を聞きまして、鳥取も頑張っているなということでございますので、課題も把握されているようでございます。これからのまちづくりを期待したいと思います。

【安田委員長】

ありがとうございます。平野病院事業管理者、いかがでしょうか。

【平野病院事業管理者】

病院事業管理者、平野です。

今、下田委員さんが言われたとおりで、全体的な高齢化、当然医師も高齢化ということで、一番危惧されているのが、鳥取県東部におきましては産婦人科医が、年配の方ばかりで、だんだん後継者がいなくて開業医では閉院されてくるというのが実態としてはあるかと思っています。それから、もともとの話ですが、鳥取県東部地域には呼吸器内科の医師が３人しかいないという、そういう問題点もあります。鳥取大学、岡山大学のほうから何とか派遣をお願いできないだろうかというように、依頼は続けているところですが、実際問題としては大学のほうにもそういう学生さん、呼吸器内科なり産婦人科なりの医者が余りいないという実態がございます。ただ、今後とも粘り強く派遣依頼を続けていくしか今は方法がありません。それを今現在も続けておるという状況です。

【安田委員長】

ありがとうございます。人口比１０万人のうちで医者の数が第３位になっているにもかかわらず、こんな問題が起こってくるのは不思議ですね。確かにおっしゃるとおり産婦人科の先生、みなさん年配の方です。いろいろ難しい話があるようであります。

次に、塚田委員、お願いします。

【塚田委員】

ゆうゆう鳥取子育てネットワークは、育児サークルの各地区にあるサークルのネットワークを束ねています。それで、０・１・２・３子育て広場とか、それから育児サークルとか、就園前のお子さんの居場所は結構できました。下手すればとり合いになるようなことも起きていますが、問題は、やはり総合児童館をつくっていただけたらなとすごく思います。同和対策の児童館はあるのですが、やはり子ども専門の場所があればいいなといつも思っています。特に、小学生もですが、中高生の居場所づくり、そこがなかなかできていないのではないかなというふうにいつも思っていまして、例えば人形劇とか、子どもたちと一緒にキャンプをするとか、そういう子ども中心の活動ができるような、そういうどこか基地のような施設があれば、やはり公民館とか、どうしても高齢者の方への視点が多くて。明石駅なんかは、駅を出ると大きな児童館がどんと新しいのが建っていますし、萩は町の中にとても素敵な児童館が建っています。これはＮＰＯが主にやっていますけれど、やはり中高生もやってきていい児童館です。是非、小中高生が集えるような場ができて、活動できるようなところがつくっていただけたらなと、いつも思っています。以上です。

【安田委員長】

ありがとうございます。ちょっと大きな問題ですけれども。

健康こども部　岩井部長、いかがでしょうか。

【岩井健康こども部長】

健康こども部長、岩井でございます。

今、言われました児童館、大きな全市的なものという意味合いだと思いますが、なかなか、私どもがやっておりますのが、各地区、地域といいますか、保育園でやっております地区の子育て支援センターというようなものをやっておるところでございます。この場所は、保育園に通われていない子どもさん、お母さん方が集って、子育てなどについて相談をしていただく場所であり、小中高生というところまでの範囲はなかなか難しいところでございます。

【安田委員長】

今の御意見を念頭に置いていただいて、今後の取組の参考にいただきたいと思います。

次に、鳥谷委員、お願いします。

【鳥谷委員】

私は、健康で長生きする方がたくさん増えればいいなと思っているので、ずっと気になっているのが認知症とかの問題で、前にニュースとかで琴浦町のほうだったか、認知症の早期発見で公民館かどことかで、お年寄りというほどのお年寄りの方でもないと思います、６０代ぐらいから、検査というか、簡単なテストをして、それでひっかかったら、その対策のための運動であったり、機能訓練みたいなことをすれば、認知症になっていく速度を抑えられるというふうなことをちょっと見たことがあって。鳥取市でもこのような検査みたいなのを気軽に公民館や、どこかの健康診断等をするときに検査や機能訓練とかできたら、健康でみんなが長生きしていけるのではないかなと思うのですが。そういう検査やテストみたいなことはされているのか教えてください。

【安田委員長】

中島福祉部長、いかがでしょうか。

【中島福祉部長】

認知症の関係につきましても、これまで介護保険の施策の中で取り組んでおりまして、地域支援推進員というような方も委託して取り組んでおられますし、初期集中支援チームというようなことで、お医者さんとか看護師さんにお願いをしまして、各地域でいろんな

方々、早期に発見して早期に対応していくというようなことが一番重要だと言われておりますので、対応をさせていただいております。現在、市内に５カ所あります包括支援センターで、そのような御相談をいただければ、また各地区のほうに保健師が出かけたりして、今おっしゃられた、タブレット端末を使って認知機能がどういった状態にあるかというような簡単なテストもさせていただいておるというような状況があります。いずれにしましても、各地域の皆さんに認知症というもの、あるいは認知症になった人がどういった状況かということをしっかり理解いただいて、認知症サポーターというようなことで養成もさせていただいておりますけれども、そういった方々をとにかく増やし、地域の中でそういった認知症の方々を温かく見守って支えていただく取組も進めており。認知症は、早期に発見して早期に対応するというのが一番大事なことでございます。このようないろんな取組をさせていただいておりますので、タブレットによるテストをしてみたいというような御要望がありましたら、包括支援センターのほうに御相談いただければ、何らかの対応をさせていただけると思っております。以上でございます。

【安田委員長】

ありがとうございます。鳥谷委員、よろしいですか。

【鳥谷委員】

はい。ありがとうございました。みんなが集まったときに、自分が認知症というふうに思っていない方でも、そういうきっかけがあって、そういうテストをしてみたら、自分はひっかかってしまったわ、どうしようではなくて、ここに行けば改善していける場所があればいいかなと思っていましたので。

【安田委員長】

町内会長から進めてもらわないといけないのかな。

【中島福祉部長】

先ほど具体的な施策といいますか、創生総合戦略の中にもありましたけれども、地域の中でいろんなサロンをどんどん増やしていこうという中にも、そういった認知症に対する対応ということも実際には入っているわけでして、いろんなサロンをして何をするかというと、ゲームをしたりとか、それから歌を歌ったり体操したりと。体の運動的な機能を維持するということもありますし、また、いろんなゲームをしたり、そういったことで認知機能を維持するといったこともあります。とにかく家に閉じこもらず、出かけていっていろんな人とかかわっていく、交流していくということが認知機能を維持していくことに

は大事だということになっておりますので、そういった取組を進めておるわけでございます。

その中で、先ほどもありましたけれども、理学療法士を派遣したり、あるいは栄養士さん、保健師さんを派遣したりというようなことも可能な限りやっていきたいと思っております。そういった中で、認知症になったらこういった状況になります、こういったことをやっていくことで認知症になるべくならないように、なったとしてもなるべく重度にならないように、そういった取組をしていきましょうというようなこともお話をさせていただいたりする機会もありますので、サロンとか、住民の皆さんが自立的にそういった機会を増やしていただいて、そこに専門職を派遣し、認知症に限りませんけれども、認知症も含めたいろんな介護予防に取り組んでいこうと思っております。いろんな御相談を是非、地域の中でやっていただいて、こういったことをやったらどうだろうかと、そういったことを包括支援センターでありますとか、先ほど申し上げました市の社協に委託をしております生活支援コーディネーターの方もおりますので、御相談いただければと思っております。

【安田委員長】

ありがとうございました。次に、西口委員、お願いします。

【西口委員】

特に最近感じているのは、災害対応ということでお話をさせていただこうと思います。

新しい庁舎に防災センターが設置される情報はあるのですが、その進捗状況を確認したいと思います。それと、地域防災という観点から話をさせていただくと、最初、公助、自助、共助ということの中で、５、６年前までは公助というものがメーン的に、半分ぐらいの割合を占めたのかなと。あと自助とか共助ということで個人的な対応であったり隣近所で助け合いであったり。地域防災の中では公助は、特に市、県、国の中での対応をされるが、要因的なこともあるのでしょうけれども、情報提供というところにとどまってきており、それが本来の主体的な対応なのかもわかりませんが、むしろ今は情報過多の中で、テロップ的に避難情報が散見されますし、雨量の情報もＮＨＫや気象庁から確認し対応しているのですが、公助という部分が情報提供というところに限っていえば濃くなってきているのでしょうけれども、共助が６割から７割ぐらいのウエートを占めてきているのかなと思います。むしろその方向でいったほうが良いと思います。

各集落、地区で対応するにしても、市や県、国の指示を待ってから動くということは時既に遅いのかなと思います。情報的に雨量が、例えば３００ｍｍぐらい降った中で判断

基準として川の水位が上がって危ないという中で、避難準備であったり避難勧告であったり避難指示ということの対応をされますが、実際避難される方が対象区域の１割ぐらいで、その手だてとして、どういう対策を今後とっていく必要があるのかなということを痛切に感じています。私の地区の対応ですが、先般、１０月１４日に防災訓練をしました。その際に、避難した後に炊き出しの訓練をしたり、担架づくりをして搬送の訓練したわけですが、身をもって体験する中で非常に難しいところが散見される中で、市がどのあたりまで対応されるのか教えてください。

【安田委員長】

乾危機管理局長、お願します。

【乾危機管理局長】

危機管理局長、乾でございます。昨今、非常に災害対応について関心が高うございます。市長の冒頭の御挨拶の中に、今回の市議会選挙、３５人立候補されて、政策公約に掲げられるテーマで一番多かったのは防災対策ということもございます。また、地域づくり懇談会ということで地域に出かける際にも、地域が設定されるテーマで最も多いのは防災だと感じております。これは九州北部豪雨や関東東北豪雨、あるいは本市におきましても本年の７月西日本豪雨ですとか台風２４号、非常に災害というのが他人事でなくなっておるということだろうと思います。

今、委員のほうからのお話にも出ました新本庁舎の防災システム、進捗はどうかというお話がございました。これは市長の政策公約にも防災センターということで掲げさせていただいておりまして、来年の今ごろには新庁舎がスタートしております。そこに最新最適の防災システムを導入いたしまして、あらゆる災害情報を正確にスピード感を持って把握するとともに、市民の皆様に迅速にお伝えするというシステムを構築すべく、現在準備を順調に整えております。そういったことで災害に強いまちというものを目指したいと思っております。

それともう１点、非常に避難の仕方が難しくなっているというお話がございました。現在、地域防災計画という市の根幹になる防災計画を見直しておりまして、今まで水害の浸水域、浸水するという地域の中には避難所を設けないという考え方だったのですが、これを改めまして、垂直避難といいまして、浸水の深さよりも上の階に逃げるとか、自宅の２階以上に逃げるとか、命を守るためにはそういう避難行動も必要だということを防災計画上にも明記をするように、現在改定を進めております。また、避難された方が非常に少な

かったと、７月豪雨のときには、市全域に避難指示を発令しましたけれども市民の０．７％ということでございました。必ずしも避難所に行くのが正しい行動とは言えません。自宅の２階以上というのも安全な避難行動であります。そういったこともしっかりとお伝えをすることが大事だと思っておりますとともに、自助、共助の力を高めて地域防災力を高めることがやはり最も重要ですので、公助はもちろんいろんな対応をしますけれども、自助、公助、共助の力を高める取組をこれからも進めてまいりたいと思っております。

【安田委員長】

ありがとうございました。次に、西村委員、お願いします。

【西村委員】

私は、国際交流という分野で参加させていただいています。今回は御報告ですが、鳥取市の住み心地のよさという話を友達から聞いたので、そのお話をしたいと思います。私、今、月の半分は広島に住んでおりまして、半分はこちらに住んでいるのですが、広島に住んでいる友達が、お姉さんが鳥取市に転勤で来て、それで退職後も鳥取市がとても住みやすいので定住しているという話でした。とてもいい話だったので、どこがいいのというふうに聞いたのですが、まず町が狭い、人が余りいない、空気がいい、食べ物が安い、おいしい、そして病院も近い、お店も近い、とても住みやすい、老後は最高ですよと言ったので、鳥取市の人が困っていることが、それがいいなと思う人もいるということをアピールして、県外の人、ほかの方たちに報告する、お話しするのもいいのではないかなというふうに思いました。

それから、もう一つですが、その方が言ったのは、タクシーの流しがない。これから私も年をとりますと、車の免許証を返上いたしましてタクシーに頼ろうかと思っているのですが、とにかく流しがないですね。どこの都市に行ってもタクシーの流しがないところはまずなくて、私も結婚してこちらに来ましたときに、聞きましたら、市とかそういうところの問題ではなくて、タクシー協会のほうでそういうふうに決めているというふうに聞いたので、タクシーはこれから老人にはとっても必要なものですので、是非、流しをしていただきたいと思います。

それから、もう一つですけれども、広島に住んでいて一番感じるのは、レストランに入ってもどこに入っても、すぐ英語とか中国語とか、ぺらぺらとしゃべられます。レストランの方たちが。それは、皆さんがすごく努力してそうなさっているんだと思いますけれども、鳥取市にもとても外国語に精通した方たちが、一般の方たちがたくさんいるので、そ

ういう方のボランティアを頼んで、タクシーの運転手さんとかウェイトレスさんとかウエーターさんたちがそういうボランティアから語学の勉強をなさったらいいのではないかと、国際交流の観点からはそういうふうに思います。

それから、もう一つ、広島でいいことを見たのですが、鳥取もしているかどうか知りませんが、７０歳以上になると、こんなノートを下さって、ボランティア活動、それからラジオ体操など健康的な活動に参加するとハンコを押してくれます。それが貯まると年間７，０００円を上限として何か商品券みたいなものをいただけるみたいで、私も６時半からのラジオ体操に毎朝参加していましたが、それが導入されましたら、今まで２０人だったのに５０人に増えました。これってすごくいい取組で、病気になる前に健康維持ができるのではないかなと思いまして。とにかく鳥取市は年配の方が多いので、病気にならずに健康で老後を過ごすというふうにしたらいいのではないかなと思いました。以上です。

【安田委員長】

突き刺さるようなことばっかりでありますけれども。先ほど、私が冒頭に披露したものの中にも結構あるので、これはどんどんＰＲしたらいいと私自身も思います。

【松浦委員】

西村さん、サービスタクシーの松浦と申します。タクシーの話題を出していただきまして、大変ありがとうございました。私も実は、鳥取県日仏友好協会の会員ということもあって国際協力というのはすごく興味を持っているところです。今、タクシーのことに関して、流しがないというお話があったのですが、ホリエモンがツイッターで発信したニュースでもあったように、流しで走っているとお客さんが手を挙げて、それを拒否して無視して通り過ぎると、いわゆる乗車拒否ということになりますので、一応、流しはやっています。やっていますということで、ただ、電話の配車がほとんどで、やはりそういうお客様の１軒１軒のお宅をちゃんと回ってお迎えに上がって、丁寧に、もう隣の家でもお送りしますよという姿勢を崩さないという気持ちで仕事はしております。どうぞ、弥生町、そのほかの町でお酒を飲まれた方は、どうぞ流しのタクシーを停めてやっていただければと思います。

【安田委員長】

次に、山根委員、お願いします。

【山根委員】

地域で活動していて、私の感じていたことをちょっとだけ話させていただきたいと思

います。まちづくり協議会ができて５年ぐらいになると思いますけれども、地域、高齢者、それから子どものこと、防災のこと、全てのことが地域に振ってこられ、地域の各長が関わっていくことになり、それぞれ負担感とえらさを感じている。地域のことは地域でしなくてはいけないということは重々承知していますが、ボランティアが行き詰まって、会長になるのが嫌だとか、そのことで会が消滅することがある。私自身も頑張らなくてはと思うけれども、今月も９回も食事サービスを行い、すごくえらいです。別に回答は求めないのですが、そういうことを今よく感じています。

それからもう一点、企業誘致ばかりではなくて鳥取の企業も育てて大切にしましょうという、選挙カーでの公約というか、そういうのが聞こえてきました。誘致、誘致というけれども、鳥取の地場産業というものも、もっともっと大切にしていかなくてはいけないということを選挙期間中の公約の中で聞きました。

【安田委員長】

ありがとうございます。全く自助、共助、公助でございますので、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

それから、企業誘致の件ですが、私たち、地場企業に所属しておりますけれども、結構手厚く支援していただいていますので、その立候補の方々、勉強不足かもわかりません。

次に、矢野委員、お願いします。

【矢野委員】

最近、鳥取市の社会人の方にお伝えしたいことがあって、どうやってその情報をお伝えしたらいいかという議論をしたのですが、今日の資料、前のときから思ったのですが、うまく情報がリーチできているかどうかというのがやはり気になっているところがあって。大学にいるので若い人たちを相手にしているので、ちょっと偏りがあるかもわからないですが、一つは、やはりウェブより圧倒的にフェイスブックを今学生は見ているということです。これはまず間違いない。

もう一つは、さっきユーチューブのインターネットチャンネルの話をされたと思いますが、皆さん御存じだと思うのですが、アイチューンユー（iTunesU）、教育版のアイチューンで日本を含む世界２６カ国の大学の講義・講義資料を閲覧できるサイトで、大学が宣伝で利用していましたが、今、全部ユーチューブのチャンネルに移行しています。多分、これはアメリカの大学、ハーバードもイエールも。多分コストパフォーマンスと、いろんな人にリーチする場合に、ユーチューブチャンネルのほうがはるかに効率的だというふう

に判断されていることだと思って、今、鳥取環境大学もユーチューブのチャンネルを通じた情報伝達ということを真剣に考えなければいけないという話をしています。

【安田委員長】

現実はそうなっているよということを認識していただきたいと思います。経済、観光、特にですよね。次に、森田委員、お願いします。

【森田委員】

新市域から参加させていただいた私が一番感じたことは、やはり住民主体、地元主体で頑張ることが本当に大切だと感じました。この委員会に参加させていただいて、本当にいろいろ勉強させていただきました。ありがとうございました。以上です。

【安田委員長】

ありがとうございます。それでは、次に松本委員、お願いします。

【松本委員】

教育関係のほうからですが、エアコンを全教室に設置することが決まったということで喜んでいます。やはり教育は人づくりということなので、小学校、中学校、高等学校にも、大学でもそうですけれども、質の高い教育をどう受けさせるかということが大事ではないかなというふうに思っています。最初の委員長の話に、４７位以降の中に教育費というのがありましたよね。やはりそのあたりが、鳥取の企業の賃金が安い、子どもに充てる教育費が低いということが、子どもたちの学力にやはり影響しているかなというふうに思っています。全国学力状況調査の結果も、最初のころは１０位とか結構いいところをいっていまして、ああ、すごく頑張っているというふうに思っていましたが、だんだんと３０位から下がってきたかなというようなことがちょっと目についているところですけれども、それをそっくりそのまま現場に返しますと学校の締めつけになってしまいますし、学校でできること、家庭でできること、地域でできることということをやはり総合的にやっていかないと、学校だけの問題ではないというふうに思っています。今、子どもたちが置かれている状況というのは、大変家庭の教育力というのも、様々な家庭がございますので、本当に学力に意欲が行っているかといいますと、やはり不登校、いじめ、いろんな部分で悩んでいる子どもたちもいますし、離婚等で不安定な子どもたちもいます。その中で、やはり頑張って学力を身につけて、自分の人生が志を持ってやっていけるような状況になったらいいのかなというふうに思っています。

今日、テレビを見ていましたら、大阪市の市長が、えっ！と思ったのですが、学力状況

調査の点数が上がったらその学校にボーナスを上げようというのが出ていまして、ええっ！というふうに思って見ていたのですが、やはり学校現場の教師たちに意欲を持たせるというところで考えられたことなのかもわかりませんが、教育は点数だけではありませんので、やはり総合的なもので見ていくという、人づくりであるということから考えていくと、教員の給料を上げてよい人材をたくさん増やして、そうしていかないと、本当に１．何倍ですかね、２倍ない競争率で先生になってこられるという現状を、私たちはもっともっと真剣に考えていかなければいけないのではないかなというふうに思っています。

大変まとまりのないことですが、もう１点だけ。質の高い向上をということで、放課後児童クラブのことも新聞に出ていました。朝日だったと思いますが、居場所づくりで、その場所はつくれたけれども、その管理者、指導者の方の免許状があるかないかということで、教員免許を持った人を必ず入れるということで、鳥取市はかなり力を入れてくださっていて、そういう状況だと思いますが、もうそれでは間に合わないというようなことで、文科省のほうも考えて、本当に人が見ていて、管理下であれば開設できるような状況になっていくようなことが書いてあったと思うのですが、やはり子ども同士、とても人間関係、仲よく遊ぶ、コミュニケーション力というのが落ちてきている子どもたちの集団ですので、そのあたりはやはり質の高い放課後児童クラブの運営であり、指導者であってほしいなということを思います。

【安田委員長】

尾室教育長、よろしいでしょうか。

【尾室教育長】

はい、ありがとうございます。

【安田委員長】

次に、松浦委員、お願いします。

【松浦委員】

２点、お話をさせていただければと思います。

まず１点は、先ほど老後は最高とおっしゃった西村さんのお話に逆行するようで申しわけないですが、若者の定住と就業についてということです。弊社に最近事件が起きまして、何と２６歳の若い男性が入社してきたということがありました。その彼は、実は実家のほうで稼業をやっていて、それと並行して複数のなりわいを持つということで、タクシーの仕事もやってみたいということで働きに来てくれたわけで、私としてはとてもうれしかっ

たところではあるのですが、それでもなお会社の平均年齢は５９歳ということで、高年齢化がとまらないというまだ課題が残っています。先ほどの７５番の問題に関連するかと思いますけれども、どんどん若者の鳥取での就業支援というのを本当にしていただいて補助するなり、さっきも矢野委員のお話がありましたけれども、メールマガジンでなくて、本当にフェイスブック、ＳＮＳなどを通じた発信をすることで、鳥取への就職活動に来るときにこんなメリットがあるんだということを打ち出すことができると思いますし、そういった方法を是非、考えていただきたいと思います。

それで、これも１０９番の問題につながります。今、まちの魅力を発信するということで、つい最近も、学生と若者をつなぐイベントですとか、あと、民芸館通りで民芸と若者、ミレニアル世代の若者の考え方のギャップとかそういうものを検証するようなイベントが開かれていましたけれども、そういったイベントをどんどん開催していただいて、若者と今の鳥取のこの文化というのをどんどんマッチングさせていただいて、定住者を増やしていただければなというふうに思います。

もう一つが、地域のコンパクトな魅力ということについてお話ししたいと思います。私は、今、週６日仕事をしている中で唯一日曜日にお休みをいただいて、早朝に妻が寝ているときにサーフィンに行くというのがＵターンしてからのひそかな楽しみであるのですが、それで、妻が活動を開始するころに何事もなかったかのように家に帰って家事を手伝うなり一緒に過ごすということを、日曜日の過ごし方としているんですが、考えてみれば、あとランニングをすることもあるんですが、鳥取、私は割と中心市街地のほうに住んでいるほうではありますが、海、山、どちらも近いです。車で３０分圏内のところに、本当に幅広いアクティビィティーができる場所があります。これは本当に鳥取の魅力だなというふうに感じていますし、これがまた東京から、前回もお話ししましたけれども、東京から１時間で来れる。本当に田舎の縮図というか、地方の縮図がコンパクトにまとまっているのが鳥取のいいところかなというふうに思います。食でしたり文化というのもしっかりと根づいている地域ですし、これはどこかなと思ったら、スペインのビルバオに近いのではないかなというのを思いました。ビルバオも、たしかバスク地方でしたか、あそこのバスクの文化と、あと世界中からめがけてくるようなおいしいグルメがたくさんあります。あと、やはり鳥取にも美術館が欲しいということ。僕は本当に美術が好きで、美術が見たくなったらよく大阪のほうに、国際美術館に行くとか、そういうことはよくあるのですが、これが身近なものになったらなおうれしいなと思います。やはり美術、食、文化を求めて国内

外から人が来るとなれば、これほどうれしいことはないなということをとても日ごろから強く感じています。以上です。

【安田委員長】

本当に全ておっしゃる通りだと思います。

大変申しわけないですが、１０分程度、延長していただけますでしょうか。

林委員、お願いします。

【林委員】

現在働いているところが、昔のとりせん角、今は日交センタービルの２階、まちパルとっとりに観光コンベンション協会があるのですが、昔のとりせん角は鳥取市内で一番にぎやかな交差点と言われていたのですが、先ほど、鳥取の魅力は人が少ないと言われたのですが、本当にまちなかを歩いている人は少ないです。それから、特に若桜橋から駅までのところは、前はシャッターが余り下りていなかったのに、近ごろは歩くたびにシャッターの下りている店がすごく増えてきていて、この中心市街地がかなり寂れてきているのは事実だと思います。

リノベーションの話がちょっとあったので、こういう取組で何とかシャッター街をもう少しにぎやかにしてもらったらいいのかなと思いますが、一方で、若い人たちがいろんなイベントを単発的にしているのですが、それがばらばらにしているので、もう少し一体感を持って、まちの中がにぎやかになるように連携したような形でイベントをするともっとお客さんがたくさん来るのかなと、木のまつりとか花のまつりのときは結構人が来ているので、せっかくイベントをするのだったら、それぞれ主体は別だけれども、上手に調整して、駅前でやっていたら、それと同じようにまたほかのところでもやっていて、同時にＰＲするとか、何かいいことができたらいいなと思っています。いずれにしても、中心市街地をもう少し活性化することをやっていかないといけないと思っています。

【安田委員長】

ありがとうございます。若桜橋から県庁まで、どんどん衰退していくのではないかな。

綱田都市整備部長、いかがでしょうか。

【綱田都市整備部長】

いろいろ御意見をいただきまして、ありがとうございます。我々としても、これからのまちの活性化に若者の力というのはとても大切だと思います。リノベーションスクールの話を少し報告させていただきましたけれども、やはり地域、地元だけでなくて、ユーチ

ューブ等々、全国的に発信というようなことも含めて行われ、その結果、県外からもたくさん受講生の方がいらっしゃって、鳥取に触れていただき、文化に触れていただき、人に触れていただき、そのことによって、鳥取に実際に入ってきて起業をいただいたという方もいらっしゃいます。先ほど、松浦委員さんのほうからもミレニアル世代の云々ということで、そういうイベントをもっと継続的にというような趣旨のお話もいただきました。まさにそういう若者との連携の場であったり、そこから次のステップに発展させていくということで必要だと思いますので、これからも一緒になって若者の皆さんと一緒になって取り組んでいきたいと思います。

【安田委員長】

ありがとうございます。次に、馬場委員、お願いします。

【馬場委員】

労働団体を代表してということで参加させていただいております。労働組合ということで、職員の福祉事業というようなことで、その一環としてスポーツ事業、スポーツイベントなんかも夏、それから秋にかけてやっておるのですが、その中で野球とかソフトボールということで、いろいろイベントをやっております。その中で、千代川スポーツ広場をよく利用させていただいていますが、ここ昨今の災害で何回も補修されておるということで、前、たしか市議会でも質問があったかと思いますが、そのたびに莫大な費用をかけて改修されておるということを伺っております。費用の面の課題もありますが、恒久施設の整備についての考えを改めて教えていただけたらと思いますし、恒久施設がたしかできないという話を議会の中で言われたかと思うのですが、そのできない理由も教えていただけたらと。そういったスポーツ関連施設の整備についてお尋ねさせていただきました。

【安田委員長】

コカ・コーラウエスト、あそこの球場は使用料が高いですかね。

それでは、綱田都市整備部長、お願いします。

【綱田都市整備部長】

この関係について、千代川スポーツ広場、これは今回に限って言えば、昨年の雨で災害復旧ということで完成いたしまして、完成して間もなく、また今年の雨で流されたという状況であります。恒久的な施設というようなお話もございましたけれども、現在、公共施設の更新問題に対応し、長期的な安定した自治体経営を行うため、公共施設の総量縮減等に取り組んでおり、新しい施設をどんどん整備する状況にないということが一つあります。

大会等で使いにくさということはあろうかと思いますけれども、鳥取市だけでなくて、その周辺のまちも含めて、各種のグラウンドがございますので、当面はそういった施設を連携して使っていただくということも一つ必要なのではないかなと思います。千代川スポーツ広場については、流されにくい整備のあり方を研究していきたいと思います。以上でございます。

【安田委員長】

次に、佐々木委員、お願いします。

【佐々木委員】

関心あることがすごくたくさんありまして、７５番、それから１０９番。今日ここに来るまでに一番感じたのは、やはりシャッターが閉まっているというのが物すごく悲しいなとすごく思いました。イノベーションで、いろんな若い人たちが頑張っているというのはわかるのですが。私が住んでいるところでも、空き家がすごく多いですね。だけど貸してほしいと言っても、家主さんがノーと言われたらそれまでで、全然前に進むことができないです。いろんな人たち、知り合いが、家主さんを知っている人と交渉したりできるようになると、知っている人にはオーケーを出す場合もあるので。だから公的な場だけではなくて、周りの人が声かけをするような形ができれば、もっともっと空き家が減っていくのではないかなということをすごく感じます。

次に、私はスポーツトレーナーをしています。それで、いろんな教室をしていて、心と体を健康にするというのが私の仕事です。質問ですが、皆さんは自分の体についてトレーニングとか何かされていますか。是非、やってほしいと思います。市役所でも、１０時と１５時にメロディーを流して、ちょっと背伸びをしてみるということをしてほしいと感じます。デスクワークをする人は寿命も縮まるということがあります。皆さん全然動かないですが、一番よくないです。だから、それをするためにも、これからの会議でも、１回は立ち上がって、皆さん背伸びをしてからやってほしいと思います。もう足がしびれそうになるぐらい、私には耐えられないです。ですから、健康については、市役所の一番メーンであるところが実践し、みんな健康についてすごく頑張っているよという姿勢を見てほしいと思います。先ほども言われていましたけれども、広島で健康のための運動や活動を頑張ったら商品券がもらえるという取組、やはり何か特典があると頑張ろうかなという気持ちになります。ですから、健康に対して意識して頑張っているんだということが本当に認められた場合には、何かしらの特典があれば、もっともっと健康について考えるのではな

いかなと思います。是非、皆さん、次からは自分の健康をまず第一に考えて、頑張ってください。

【安田委員長】

ありがとうございました。それぞれの専門分野の視点で御意見をいただきました。今後の市政推進の参考にしていただければと思っております。

その他、事務局、何かございますでしょうか。

【塩谷政策企画課長】

事務局からお礼とお知らせでございます。委員の皆様におかれましては、２年間、創生総合戦略、また総合計画の進行管理等に対しまして慎重審議をいただき、本当に大変ありがとうございました。次期の委員についてのお知らせですけれども、次期委員の委嘱につきましては、来年の２月に委員の公募を、市報、それからホームページで行ってまいりたいと思っております。また、新年度に入りまして、４月に入ってからですが、各団体へ、委員の推薦をお願いしたいと思っております。５月には新たなメンバーで、この総合企画委員会を開催する予定としております。次期委員会では、次の創生総合政略、また第１１次の鳥取市総合計画、こういったところの策定に伴う審議等を行っていく予定としております。事務局からの連絡は以上でございます。

【安田委員長】

ありがとうございました。

最後でありますけれども、市長、何かコメント、いかがでしょうか。

【深澤市長】

今、担当課長が申し上げたのですが、本当に２年間、委員の皆様におかれましては総合計画、また創生総合戦略の進捗管理等々を初め、様々な面で大変お世話になりました。改めて心より感謝申し上げたいと思います。先ほど佐々木委員さんのほうから、トレーニングしたほうがいいと、市役所も率先してということでありました。ずっと以前には、定時にストレッチ体操というのをやっていまして、体がリラックスして、心もまたリラックスして非常に効果的だったんですが、いつの間にか行わないようになってしまったので、また検討してみたいと思っております。

本当に委員の皆様にはこの２年間お世話になりました。重ねて感謝を申し上げて、御礼の御挨拶にさせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

【安田委員長】

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、平成３０年度の第３回総合企画委員会、これをもちまして終了させていただきます。